

ひがしの子

令和3年6月1日

岐阜市立岐阜東幼稚園

園長 藤井 佐由美

今年は、梅雨入りが早く激しい雨が降り気温が下がったり、「夏日」となり気温が30度近くまで上がったりと、天候の変化が激しいため、体調を崩しやすい子供の姿が見られます。

幼稚園では、毎日多くの子供が、保健室の渡邊先生を訪ねてきます。そんなとき、渡邊先生は、どんなに忙しくても、子供たちに向き合います。体調不良の子供はもちろんのこと、ちょっとした怪我・・・？の子供も、気持ちを立て直すために、ほんの少し大人の温かい受け止めを必要としていることを理解しているからです。しばらく受け止めてもらおうと、子供たちはまた元気に遊び出していきます。養護教諭の渡邊先生以外にも、教頭の宮内先生、事務の遠藤先生、栄養職員の山口先生、園務員の大友先生など、直接、クラスで関わる以外の場所にも、子供たちを温かく受け止めてくれる拠点があることが、幼稚園として、あるべき姿であると感じています。

5月26日（水）の夜、日本では3年ぶりの皆既月食が見られました。しかも、今回は「スーパームーン」と呼ばれる満月としては、1年で最も地球に近づく日にも重なっていました。残念ながら、岐阜では曇りとなり、素晴らしい天体ショーを見ることができなかったのですが、私は、帰宅してから、YouTubeで、しっかりと見ました。それをきっかけとして、皆既月食の仕組みや「なぜ、赤く見えるんだろう・・・？」という疑問をもち、ちょっと調べてみたら面白くなりました。



また、ある日、登園してきた子供が、桜の木に静かにとまっている「ヨコヅナサシガメ」を見つけました。見た目にはとてもきれいでカッコいい虫です。私も一緒になってじっくりと観察しました。その子は、次の日も、また次の日も、登園すると真っ先に桜の木を見つめます。お母さんも、私も一緒になって見つめます。そのうちに、「ヨコヅナサシガメ」は、ダンゴムシをつき刺し、捕食し始めました。なかなか斬新な姿でしたが、気付いたら、お母さんも私も、子どもと同じくらいの熱量で、「ヨコヅナサシガメ」に夢中になっていました。

地球は、私たちが知らないことや不思議なことがいっぱいです。何でもいいので、ぜひ、大人も一緒になって、いろいろな不思議に興味をもち、観察したり考えたりしてみてください。

【ちょこっと知識】

サシガメというのはカメムシの仲間のうちで、他の昆虫をとらえて体液を吸う捕食性のグループで、クサギカメムシのような普通よく見るカメムシよりは体が細長く口吻（こうぶん）が太くなっています。そのサシガメ類の中で日本で一番大きな種類が、ヨコツナサシガメです。ヨコツナサシガメの体はまっ黒で、体が大きく（成虫では体長2cmほど）、広く張り出した腹部の側面に白黒の縞模様があります。この模様を相撲とりの化粧まわしに見立て、またたいへん大きいことから「ヨコツナ」と名付けたようです。

この虫をさわると口吻で刺されることがあります。毒はないけれど、刺されるとたいへん痛いので、注意しなければなりません。幼虫も成虫も、毛虫などの昆虫を捕まえ長い口吻をつき刺して体液を吸うという、毛虫の天敵でもあります。

幼虫で越冬し、春に成虫になり、6月頃産卵します。8月頃卵から幼虫がふ化します。幼虫は、黒・赤・白の目立つ色彩で、桜などの大木の幹に集団でいます。

～富山市科学博物館より～

《6月の保育について》

【3歳児】

○いろいろな感触を楽しんで、解放感を味わう。

○先生と一緒に身の回りのことをしようとする。

少しずつ自分の周りに目を向けられるようになって、そばで遊んでいる友達も持っている物やしていることに興味をもって、同じことを「したい！」と言ったり、したりする姿も増えてきます。「真似

をする」ということは、人とかかわりにおいて、学習する（理解する）ことにおいても大切なことです。また、「同じ」を知ることは、「ちがう」を知る第1歩です。

教師や友達と一緒に歌ったり踊ったりすることを楽しんだり、年長児のしている遊びに興味をもち、一緒に遊んだり、水や泥、砂などの感触を楽しんだり、裸足になって解放感を味わったりするなどの姿が見られるようになります。



“みんなと一緒に楽しい！”と思える経験を積み重ねていきたいと思えます。安全面に十分配慮しながら、様々な感触遊びを準備したいと思えます。

遊びの支度（泥んこズボンやシャツに着替えたり、水遊びの準備をしたりするなど）や片づけを教師と一緒にしながら、やり方や順番を覚えて、自分でしようとする子も出てきます。出来栄は十分ではないかもしれませんが、認めたりほめたり

り、一緒に喜んだりしながら、“自分で！”という意欲を高めていきたいと思えます。



【4 歳児】

○自分の思いや考えを先生や友達に伝えようとする。

○いろいろな素材に触れたり、身の回りの動植物に関心をもったりする。



気の合う友達との遊びが楽しくて、誘い合って遊ぶ姿が増えてきます。遊びの中で、自分がしたいことや思いをことばで伝え合い、互いの気持ちがわかって遊べるようになる一方、うまく伝えられなかったり、思いがぶつかったりすることもあります。泣いたり怒ったりする場面も増えてきます。この両面（伝え、わかり合う・うまく伝わらない）を経験することは、相手の話を聞いたり、思いに気づいたりすることができるようになるためにも、とても大切なことです。教師が一人一人の思いを十分に

受け止め、仲介に入りながら、まずは、「伝える」ことができるようにしていきたいと思います。泥、水、砂、粘土など様々な素材に体中で触れ、感触を味わったり、そのものの特徴や性質を感じたり知ったりします。カエルや幼虫、カブトムシなどの生き物への関心も高まってきます。

“～みたい”“何でかな？”“すごい！”…などいろいろな思いをもったり感じたり、発見したりするようになります。様々な素材を準備したり環境を整えたり、教師も一緒に遊んだり共感したりしながら、このような経験を積み重ねていきたいと思います。

【5 歳児】

○友達と同じ遊びをする中で、つながりを感じながら遊ぶ。

○いろいろな動植物に興味関心を示し、愛着をもって接する。

ごちそう作りや泥団子作り、砂場や固定遊具など、自分なりの目的をもって、試したり、工夫したりしながらじっくり取り組むようになります。近くで同じように遊んでいる友達がいることに気づき、認めたり

励ましたり、一緒に楽しんだりする経験を通して、「つながり」を感じられるようにもなります。

ごちそう作りがお店屋さんになっていたり、砂場での山や川作りが大掛かりなものになっていたりします。「つながり」から、さらに共通のイメージや目的をもつようになっていくと、ごっこ遊びや協同した遊びへと発展していきます。そこに至るまでの過程は、必ずしもうまくいくことばかりではありません。この時期に、「つながり」を感じられる経験をたくさん積み重ねていけるよう、教師もその中の一員（一因）となり、“うまくいかなかった…”だけで終わらないよう援助していきたい

と思います。

夏野菜の生長や田植え、カエルや虫捕りなどを通して、動植物への興味関心が高まっていきます。どうすると生長するのか、どのように飼ったらいいのかなど、個々が、そして学級として考えていける場面を作っていきたいと思っています。



お茶屋さんのボランティアありがとうございます。



保護者のお茶屋さんのおかげで、子供たちは戸外で元気に遊びながらも、熱中症対策を強化できています。本当にありがとうございます。保育サポーターは、あくまでも、ボランティアですので、「できる人ができる時に・・・」というスタンスで、進めていきたいと思います。

【新型コロナウイルス感染症に関わって】

政府は、**岐阜県の「まん延防止等重点措置」**を、6月20日まで延期とし、**岐阜市も、独自の「緊急事態宣言」**を、6月20日まで延期としました。

これを受けて、幼稚園では、やむを得ず以下の行事について変更の措置をとることにします。

6月8日（火） 未就園児の遊びの会（ひまわりクラブ）

⇒中止

* ホームページ参照

6月2日（水）、4日（金）、9日（水）、11日（金）、16日（水）、18日（金）

園庭開放 事前予約制（一日3組まで）

* ホームページ参照

⇒ 水曜日は在園児のきょうだいの未就園児対象（3組まで）

⇒ 金曜日はそれ以外の未就園児対象（3組まで）

6月9日（水） 保育参加（年少児親子）

⇒ 中止（子どものみで実施）

6月15日（火） 保育参加（年長児親子）

⇒ 中止（子どものみで実施）

6月21日（月） 保育参加（年中児親子）

⇒ 中止（子どものみで実施）

